

AI時代を生きる

地球環境の観点からCO2を排出するエネルギーは使わないという方向に舵が切られました。原油からガソリンや重油を抽出する仕事はいずれ無くなるということです。ナフサなどの原材料として使う以外の需要が喪失するので、必要な原油も石油精製装置も三分の一に減少します。自動車も部品点数が少ないEVなどに徐々に移行し自動車産業のかなりの雇用が失われるはずで、高度成長期の製鉄や造船が花形産業だった時代から、ゼネコンや総合商社が花形の時代を経て自動車やロボットが日本経済を牽引してきました。今はITの進展でDXやAI技術が主役になりつつあり技術者不足が叫ばれています。しかしこのIT技術者全盛の時代もいつまで続くか分かりません。今、実学としてもてはやされているものの多くは、一昔前に良い給料を得る事が出来た仕事で早晩陳腐化します。産業構造は時代とともに目まぐるしく変わるので、今や難しい計算はコンピュータがなんでもやってくれます。最近話題になっている人間の指示に従って、文章、画像、動画などを生成する「チャットGPT」は課題の小論文もほぼ完璧にこなし、米国では教育現場に波紋を呼んでいます。学生はこのような変化の激しい時代を生き抜くことになり、日頃のアップデートだけではなく、少なくとも数年に一回は抜本的なリスキングが必要です。今後はAIが苦手な創造的な仕事や分野横断的な知識を基に、直感や想像力を駆使して解決策を見出す力が重要になります。このような時代を迎え大学は新たな分野の学び方やその学びを創造につなぐ力を身に付ける場にならないと生き残れません。西日本工業大学では「工学とデザインの融合」という目標を掲げています。これは丈夫で長持ちという効率一辺倒のこれまでの発想から、人が使いやすく疲れにくいことに配慮するなど、AIが苦手な「人間にとって快適かどうか」というデザイン思考が出来る人材を育成する教育を目指しています。

*リスキング：新しいことを学び、新しいスキルを身につけ実践し、新しい業務や仕事に就くこと。

離任にあたって

今年も別れの季節がやってきました。3月20日、4年間の殆どをコロナ禍という異常事態のもとで過ごした卒業生たちが「蛍雪の功」を手にして西日本工業大学の学び舎から旅立ちます。今回の卒業生の入学と同時期に学長となった私も3月末に退任します。日本のモノづくりが勢いを失う中で工業系大学のあり方を問い続けた4年間でした。DXが進みデータサイエンスの重要性が叫ばれていますが、日進月歩する技術うんぬんより、新たなことを身に付ける「学び方」やグローバル化などで変化する価値観をアップデートする「術」を知り、社会に必要な思いやりの心を知る場が大学というのが、私の至った結論です。

今後、どのような未来になろうともAIは社会の中に確実に実装されていきます。暫くの間はAIを動かすデータ集めやその取り扱い方を身に付けることが必須になるでしょう。同時にモノからコトへの変化や地球環境の観点から「人にやさしいか」が判断基準になる社会がやってきます。西日本工業大学が開学以来目指してきた、AIが苦手な「人間力」をつけることが益々重要になっているのです。

また、複雑化している現代の課題に対応するには専門分野を横断的に俯瞰できる教養の重要性を再認識しました。そこで教養を身に付けるため読書をするように言い続けました。読書は知らず知らずのうちに考える力や論理的に話す力もつきます。特に「人にやさしいか」が問われる時代になり、工学系こそ、心の動きを描写した文学に親しむことが重要とも訴えてきました。

私は学長を経験して初めて学び続けることの大切さが自分事として認識できました。皆さんにこのメッセージが十分に伝わったかどうかは分かりませんが、退任後も「今日が自分にとって一番若い日」と思って学びなおしを続けるつもりです。最後になりましたが、これまで学長の部屋にアクセスいただいた方々に心より感謝を申し上げ、お別れの言葉とします。ありがとうございました。